

# school library communication

平成30年 7月 6日 (金)

生麦中学校 学校司書

郡戸香澄

**6月23日** 土曜日、**沖縄慰霊の日**の朝、テレビをつけた

私の目に映ったのは、沖縄県に住む中学生の相良倫子さん。

そして、耳に飛び込んできた詩の朗読に感動し、朝から号泣したのは、私だけではないかもしれません。

14歳相良倫子さん 曾祖母の思い継ぐ

沖縄「慰霊の日」  
平和の詩「生きる」  
(一部抜粋 全文26面)



沖縄全戦没者追悼式で自作の詩を朗読する浦添市立港川中3年の相良倫子さん(23日午後、浦添市立港川中3年の相良倫子さんの朗読会にて)

## 平和の詩全文

浦添市立港川中3年  
相良倫子さん

生きる

私は、生きている。

マンツルの熱を伝える大地を踏みしめ、

心地よい湿気を争んだ風を全身に受け、

草の匂いを鼻孔に感じ、

遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。

私の生きるこの島は、

何と美しい島だろう。

青く輝く海、

岩に打ち寄せしづきを上げて光る波、

山羊の嘶き、

小川のせせらぎ、

畑に続く小道、

萌え出づる山の緑、

優しい三線の響き、

照りつける太陽の光。

私はなんと美しい島に、

生まれ育ったのだろう。

ありつたげの私の感覚器で、感受性で、

島を感じる。心がじわりと熱くなる。

私はこの瞬間を、生きている。

この瞬間の素晴らしいが

この瞬間の愛おしさが

今と言う安らぎとなり

私の中に広がりゆく。

たまらなく込み上げるこの気持ちをどう表現しよう。

大切な今よ

かけがえない今よ

私の生きる、この今よ。

七十年前、

私の愛する島が、死の島と化したあの日。

小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わ

った。

優しく響く三線は、爆撃の轟に消え

た。

青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくな

った。

草の匂いは死臭で濁り、

光り輝いていた海の水面は、

戦艦で埋め尽くされた。

炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣

き声、

燃つていった民家、火葉の匂い、

着弾に揺れる大地。血に染まった海、

魑魅魍魎の如く、姿を変えた人々、

阿鼻叫喚の壮絶な戦の記憶。

みんな、生きていたのだ。

私も何と変わらぬ、

懸命に生きる命だったのだ。

彼らの人生を、それぞれの未来を、

疑うことなく、思い描いていたのだ。

家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。

仕事があった。生きがいがあった。

日々の小さな幸せを喜んだ。手をひ

いて

今を、一緒に、生きているのだ。

## 戦力という愚かな力で得られる平和など無い

合つて生きてきた、私と同じ、人間だ。だから、きつとわかるはずなんだ。戦争の無意味さを。本当の平和を。それなのに、

壊されて、奪われた。生きた時代が違う。ただ、それだけで。得られる平和など、本当は無いことを。平和とは、あたり前に生きていること。その命を精一杯輝かせて生きていること。というべき。

無量の命を、あたり前に生きていた、あの日々を。

摩文仁の丘眼下に広がる穏やかな海。悲しくて、忘れることのできない、この島の全て。

私は手を強く握り、誓う。奪われた命に想いを馳せて、心から、誓う。

私が生きている限り、こんなにも多くの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。

もう二度と過去を未来にしないこと。全ての人間が、国境を越え、人種を越え、宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和のある世界を目指すこと。

生きる事、命を大切にできることを、誰からも侵されない世界を創ること。平和を創造する努力を、厭わないことを。

あなたも、感じてるだろう。この島の美しさ。

あなたも、知ってるだろう。この島の悲しみ。

そして、あなたも、私と同じ瞬間を一緒に生きているのだ。

だから、きつとわかるはずなんだ。戦争の無意味さを。本当の平和を。頭じゃなくても、その心で。

戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いことを。平和とは、あたり前に生きていること。その命を精一杯輝かせて生きていること。というべき。

私は、今を生きている。みんなと一緒に。

そして、これからも生きていく。一日一日を大切に。

平和を想って。平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。つまり、未来は、今なんだ。

大好きな、私の島。誇り高き、みんなの島。

そしてこの島に生きるすべての命。私と共に今を生きる、私の友の家族。

これからも、共に生きていく。この青に囲まれた美しい故郷から。真の平和を築き上げよう。

一人一人が立ち上がり、みんなが未来を歩んでいく。

摩文仁の丘の風に吹かれ、私の命が鳴っている。

過去と現在、未来の共鳴。鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。命よ響け。生きている未来に。

私は今を、生きていく。

(原文のまま)  
沖縄県平和祈念資料館提供

## 沖縄慰霊の日

曾祖母の体験聞き「命よ響け」 平和の詩

相良さんの詩は県平和祈念資料館が募った「平和の詩」971点の中から選ばれた。

うるま市に住む94歳の曾祖母は戦前から理容店で働き、地上戦を体験。友人が目の前で被弾して命を落としたことや家族と離ればなれになった話を聞き、相良さんは「戦争の残酷さを感じた。曾祖母の存在から平和や戦争について考える機会が増えた」と振り返る。

5月に曾祖母が入院したことで、「生きる」を詩のテーマに決めた。

「優しく響く三線は、爆撃の轟に消えた」 「青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった」。作品では「戦争の残酷さがより伝わる」と美しい島の現在の情景と73年前の戦場を対比的に描いた。

「戦争は人を鬼に変えてしまうから絶対してはいけない」と教えてくれた曾祖母。

「この詩が一人でも多くの人に平和や戦争について考えるきっかけになってほしい」と願う。「一日一日を大切に。平和を想って。平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。

つまり、未来は、今なんだ」

【佐野格】毎日新聞のホームページより抜粋

6月23日は、地上戦を体験した沖縄慰霊の日です。3年生が修学旅行で訪れた沖縄に住み、戦争を体験した家族から聞いて出来た相良倫子さんの詩の朗読を、お昼の「読み聞かせ隊」で聞いて欲しいと思っています。ご家族の皆さまには、相良倫子さんの朗読を映像とともに毎日新聞社のホームページで聞くことができますので、ご覧ください。（相良さんの声がはっきりと届く映像でしたので、こちらを紹介しました。）

第100回全国高校野球選手権記念大会「100回つなぐ始球式リレー」で、この日最初の「登板」となった安仁屋さんは「一球一心」と色紙に書き、「平和をつなぐ」ことに思いを込めて一球を投げた。思いのこもったボールが各地を回り、甲子園へとつながっていく。（6月24日 朝日新聞朝刊1面要約）



平和の詩の中には、「マントル」「三線」「火災放射器」「魍魎魎魎」「阿鼻叫喚」「無辜の命」「摩文仁の丘」「鎮魂歌」などなど、どんな意味なんだろう？読み方がわからないなあ～（´・ω・`）なんて言葉がありましたね。意味がわからなければ『国語辞典』で、『国語辞典』に載っていない言葉は百科事典（ポプラディア）で、漢字が読めなければ『漢和辞典』

で、四字熟語は『ちびまる子ちゃんの四字熟語教室』の本で調べてください。『国語辞典』『漢和辞典』『ちびまる子ちゃんの四字熟語教室』の本は全クラスの学級文庫にあります。そして、図書館にはその他にも沢山の百科事典や辞書があります。わからない言葉を調べて、わかるようになると、気持ち良くなりますよ！（o^-^o）  
『潮騒』という言葉もありま

した。図書委員会が発行する図書館だよりV o l . 3で、窪先生が中学生にお勧めした本のタイトルですね。著者は三島由紀夫さん。秋には図書館にリクエストした本が入るのでぜひ読んでください。



と、言ったところで、はたして・・・「魍魎魎魎（ちみもうりょう）」と、「阿鼻叫喚（あびきょうかん）」の四字熟語が『ちびまる子ちゃんの四字熟語教室』に載っているのだろうか？？？と、とても心配になった私は、調べてみることにしました。

Σ(°Д°|||)ガーン

載っていない(๑)

これは、大変！ 探さなきゃ！

### 「魍魎魎魎（ちみもうりょう）」

『国語辞典』に載っていました。あ～良かった～（o^-^o）

『広辞苑』には、山の怪物や川の怪物。さまざまのばけもの。

『国語辞典』の説明より、言葉数が少なかったのは以外でした。

『日本国語大辞典』には、いろいろな妖怪変化。

魍（ち）は、ばけもの類。

魎（み）は、もののけの類。

魍魎（ちみ）は、山林の気から生じるばけもの。

魎魎（もうりょう）は、山川や木石などの精霊。水の神ともいう。

まだまだ詳しく書かれているので、興味がある人は図書館で辞典を引いてみてください。あまりにも詳しく書かれていたので、理解しようと頑張っていた私の頭は、パンク寸前でした。（^）o（^）



### 「阿鼻叫喚（あびきょうかん）」

『日本国語大辞典』には、阿鼻地獄と叫喚地獄。両者とも八大地獄の一つ。また、とくに阿鼻地獄のことを指すこともある。著者：井伏鱒二『黒い雨』の本の中にも出てくる言葉だということなど、とても詳しく書かれていました。『黒い雨』は映画にもなりました。井伏鱒二さんの『山椒魚』は昭和の教科書には載っていましたが、平成の教科書にも載っていますか？

2冊とも図書館にありますので、読んでくださいますませ。（^0^）／

6月  
23日

沖繩慰霊の日：一九四五年、太平洋戦争で日本に唯一地上戦が行われた沖繩で、日本軍の組織的戦闘が終わった日。沖繩の戦争で亡くなった人の霊をなぐさめて平和を祈る日。

★★  
阿鼻叫喚

阿鼻+叫喚



使い方

とても混乱するとき  
大地震が起きたとき、一年生のクラスでは、阿鼻叫喚の様子だった。

意味

地獄のようにつらくて苦しい状況で、大声で泣きわめくような、とてもひきんな様子。

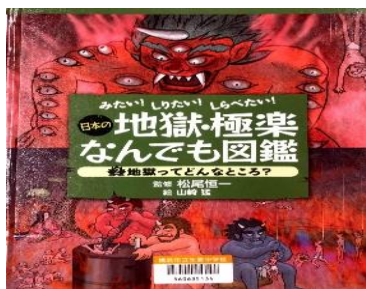
由来

地獄のなかの、阿鼻地獄(もつとも大きな罪を犯した者が行くところ)と、叫喚地獄(熱湯や火のなかで苦しめられて泣き叫ぶというところ)を合わせた言葉。

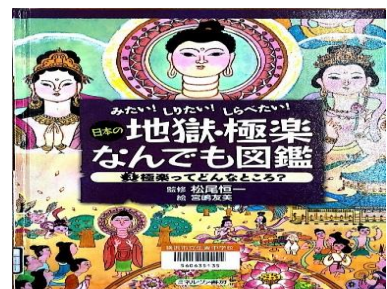
昨年度卒業した70期生のSくんが2年生の時、たまたま通った教室から楽しそうな声があったので覗いてみると、夢の中で修羅道に行ったと話していました。堂園先生に「地獄の本はありますか？」と尋ねられ、丁度タイミング良く『みたい！しりたい！しゃべりたい！日本の地獄・極楽なんでも図鑑』出版社：ミネルヴァ書房の本が届いたばかりでしたので、「あります。」と答えました。すると、Sくんの隣に座っていたFくんが、休み時間に図書館に「地獄の本見せて～」とやってきて、本を借りていきました。きっと、教室のみんなでお本を囲んで楽しく過ごしたことでしょう！



修羅道はこちら



阿鼻地獄・叫喚地獄はこちら



極楽気分を味わいたい人はこちら

☆ 芥川龍之介の『蜘蛛の糸』が冥土にまつわる物語として、本の中で紹介されています。

徳島県実家の隣町牟岐町にあるお寺に、子どもの頃「地獄極楽」というテーマパーク的な所がありました。(ホームページで調べてみると、正式名は「八大地獄」というようです。 <http://shokanji.kir.jp/> )

お化け屋敷よりも、ずっとず～と怖くて、悪いことをすると地獄に落とされるからと戒められたことが大人になってからも心に残っています。 **子どもの時の体験は貴重です。**

大分県にもアドベンチャー型テーマパーク「地獄極楽」という全国的にも珍しいミステリアスな観光スポットがあるそうですよ。夏休みのお出かけ場所に選んでみたら？ 暑い夏も涼しく過ごせるかもしれませんよ～ (一一)!